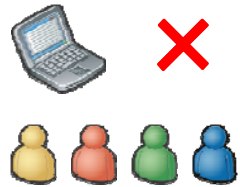


メーカーによる機種毎のOSの振舞いをVPC2007で統一

作成日：2007年7月19日 作成者：エクナ株式会社

現状の問題



なぜ、桐が動くPCと動かないPCがあるの？

桐Ver.5というデータベースソフトが稼働していた。
当時のプログラム作成者の退職等により新しい環境への移行作業が難しい状況があり、DOS窓の環境で桐Ver.5を動作させていた。
問題となったのは、桐Ver.5では、稼働の為に、EMSのメモリ領域を必要とする為、メーカー等により、動作するPCが限られるという現象がおきていた。

解決策 → OSの仮想化

VPC2007が提要求する、仮想OSの環境は、古い標準的なデスクトップのPCを仮想で作り出します。
この仮想OSの環境では、EMS領域が確保される為、桐Ver.5が稼働します。



問題なのは、EMSメモリの環境

A社のノートPC → OK
B社のノートPC → NG

上記の様な問題が発生していた！

VPC2007のメリット

- 1) 桐Ver.5がメーカーや機種に依存せずに稼働
※機種に左右されずEMSメモリが確保可能！
※機種の選択肢が増える！
- 2) 仮想OSのイメージファイルを他のPCに転送可能
※大量のPCへの展開作業の時間を削減！
※統一環境により管理コストの削減！
- 3) WindowsVistaへの対応
※VPC2007では、WindowsVistaでも、同一の仮想OS環境を提供！

導入時のポイント

仮想OS環境をWindowsXP上に作成するには、別途、ライセンスを購入する必要があります。

是非、当社に、ご相談ください。